時事新報

第千四百六十九號

明治十九年十二月廿七日月曜日
舊丙戌十二月三日（辛、酉）

日出午前七時十分　日入午後四時十四分
月出午前八時十五分　月入午後六時四十三分
滿潮午前六時四十三分　午後七時零三分
（西暦一千八百八十六年）

時事報報

養蠶製糸の業

日本の富國策は多言を要せず唯養蠶製糸の業にありとは我輩れ素論にして屢ば陳述せし處なるが我邦の希望終に空しからんか近年來全國の殖產社會にては養蠶に注目するもの日に多きと加へ既に或る二三の地方に於て縣官自ら率先して桑の業と奬勵するの沙汰さへあり今や全國の人心は既に已に養蠶の利益を悟り人々自ら進んで其業に從事せんとするの有樣あれば養蠶奬勵の事に關しては最早他より彼是と心配せずして十分あり と申す次第い此程福島縣下を漫遊して歸京しさる人の實話と承いるに此頃東海道筋れ養蠶家が種紙を求めんとて同縣下に來りし處本年之諸方より種紙の注文夥しきと以て大抵は皆賣盡し一軒の家にて五枚以上の種紙を餘し居るもい甚だ少おく漸く五六軒の製造家と等ね麹はり數種の種紙と取交せ辛うして卅枚を求め得たりしとの事なるが蠶卵紙の種切れとは同地方よりも近來未聞の事にして本年全國よて養蠶の氣運の盛んなる一班は此一事にても窺ひ知るべしといふ又桑苗の如きも本年い其需用頗る多く昨年頃迄は福島地方にて一本ゝ付四五厘のものが本年はうの三四倍即ち一錢四五厘に騰貴し尚ほ盛んに各地方に輸送するといふ全國れ景況既に此の如くなる上は蠶桑の事に就て最早我々の心配を要するに及ばざる事なるが又一方を顧て本年生糸輸出の景況如何と聞くに是又非常の好景氣にして昨明治十八年海外ゝ輸出したる生糸の總計は二百四十五萬七千斤（是は全く純粹の生糸のみにて玉糸、製斗糸、屑糸等い此外なることと知るべし）其價格千三百三萬圓あり とが本年は果して何程の輸出なるや未だ詳細の報道と得ずといへども多分三百萬斤を超過するおらんとの評判あり昨十八年日本より海外諸國ゝ輸出の總額い三千六百十萬圓にて其中千三百三萬圓は全く生糸の價あり とすると生糸は總輸出額の三分の一以上を占むるものにて本年生糸の輸出三百萬斤に達せば生糸のみにて殆んと總輸出の半額と占むるに至ることならん之と以て推測するゝ今後生糸の輸出をして今の總輸出の額と齊し允に至らしむるい百ふも愚か之を二倍し三倍し乃至は五倍六倍するに至らしむるゝ人々の心掛次第ゝて決して期すべからざるの望みにあらざるべし而して絹糸の需用い世界文明富實の進歩と共に增さとあるも減することなきい今日の實際に於て疑ひなき事實あれば今後日本の富國策い敢て其多きを望み又其離きを責むるを要せず唯桑を植えて蠶兒を養ひ之を製して糸となし海外に輸出して世界の需用に應ずるのみにて可なり 蓋し容易なりと謂ふべし、さて養蠶の事は前記の如く既ゝ全國氣運の向ふ所なれば夫にて十分ありとして我輩の更に此上に希望する所は我國生糸の品質を改良するの一事なり我輩の聞く所に依れば現今歐洲の市場ゝ上り製造の用に供せらるゝ生糸の品質い佛國幷ゝ伊國製のものを以て第一等とし支那及び日本製のものは其品質劣るとして歐洲製のものゝ劣ること數等れ下に あるを以て日本の生糸は歐洲の市場に於ては殆に支那製のものと伍をなすのみにて佛國幷に伊國製のものと比肩するゝとは迚も思も寄らざる事あるが日本の蠶質は天然下劣にして良好の生糸を得る能いざるかといふに決して然らず唯ろれ製糸の方法未だ至らざるが故なるのみ今夫れ養蠶の業たる日夕田圃の桑葉を摘截し來て蠶々たる裸虫を養ひ若干の時月間に成繭の収穫を納むるものにて恰も農夫が耕作に從事して穀物を收穫するゝと同玄く純然たる農の事なれども製糸の業ゝ至ては大に之に異なり錬磨の巧と機械の力とを要するものゝゝ て最早農れ事にあらず即ち工の事なりされば養蠶の業と製糸の業とい農と工との區別にして立派に分業の行はるべき筈なるに日本にては古來今に至るまで兎角其間に分業の行はるゝゝと少なく桑を刈り虫を拾ひさる粗笨なる農夫の手を移して直ちに智巧錬磨を要する工の事ゝ兼用するゝ十中八九皆然るがゆゑゝ其製造品れ疎漏なるべゝは素より怪しむに足らざる事にして畢竟日本生糸の歐洲製のものゝ比して其品質れ下劣なるゝ其製法の未だ至らざるが爲めあるのみ蓋し蠶糸れ業猶ほ幼稚なる昔日に於ては農工の仕事を兼業し養蠶家即ち製糸家たるも亦免を難き處なれども蠶桑の事業大に進歩して之に依賴して一國の富源と維持せんとするれ今日に至ては亦昔日れ舊套故態と墨守すべきゝあらず宜玄く養蠶と製糸とを區別玄彼の所謂坐繰などいふ事と磨玄速ゝ器械の製法に改めて大に生糸の品質を改良するゝ玄今日の急務なるべし抑も日本の地たる氣候溫和地味豐腴にして蠶桑の業に適するゝは申もまでもなく川流到る處に開通し其水質清洌ゝして之を利用して生糸の製造に供すべし我國人は須らく此の天與の惠福を全ふし大に進んで生糸の製造ゝ盛んに玄其品質を改良玄て内は一國の富源を養成し外は世界の市場ゝ縱横するの策を講ずべきなり

官報

○勅令　朕明治十四年度ノ歳計決算ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治十九年十二月二十三日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第八十三號

明治十四年度歳計決算

歳入

經常歳入

第一款　租稅、金六千百六十七萬五千九百二十七圓三十九錢六厘

第一項　海關稅、金二百五十六萬九千六百六十六圓三十九錢一厘　第二項　地稅、金四千三百二十七萬四千三十一圓八十九錢六厘　第三項　鑛山稅、金二萬二十一圓二十二錢六厘　第四項　北海道産稅、金八十一萬七千八百三十六圓二十七錢四厘　第五項　酒造稅、金千六十四萬六千百六十三圓二十七錢四厘　第六項　醬麹營業稅、金五萬六千七百九十六圓四十錢　第七項　煙草稅、金廿七萬六千三百卅二圓三十六錢五厘　第八項　證券印紙諸稅、金八十八萬五千八百廿六圓廿八錢六厘　第九項　郵便稅、金百六十五萬九千六百七十九圓七十九錢七厘　第十項　訴訟費紙諸稅、金十一萬六千五百七圓四十錢　第十一項　代書免許料、金二萬百二十圓　第十二項　船稅、金十三萬三千四百十七圓六十八錢　第十三項　車稅、金四十二萬八千二百十圓八十六錢五厘　第十四項　會社稅、金四十九萬六千二百二十三圓六十四錢七厘　第十五項　銃砲稅、金九萬三百十三圓九十五錢　第十六項　牛馬賣買免許稅、金八萬八千四百三十七圓十四錢一厘　第十七項　質藥營業稅、金八萬四千二百四十六圓六錢四厘　第十八項　度量衡稅、金三千二百九十八圓八十七錢六厘　第十九項　版權免許料、金三千七百三圓十四錢九厘　第二十項　海外旅券其他免許手數料、金七千九百三十六圓五十六錢九厘　第二十一項　雜稅追納、金五百四十七圓七十二錢一厘

第二款　作業益金、金二百十四萬六千六百九十七圓七十七錢六厘

第一項　大藏省造幣、金三十八萬五千二百三十三圓四十一錢五厘　第二項　海軍省造船、金一萬二千三百七十三圓八十四錢一厘　第三項　海軍省石炭、金千八百九十六圓七十八錢三厘　第四項　農商務省製作、金一萬六千二百七十六圓八十六錢　第五項　工部省鑛山、金三十萬八十八圓七十七錢二厘　第六項　工部省鐵道、金百十二萬七千四百七十八圓八十四錢七厘　第七項　工部省電信、金二十六萬三千六百二十八圓三十二錢四厘　第八項　工部省工作、金一萬五千二百三十三圓七十一錢七厘　第九項　工部省採油、金二百六圓八錢一厘　第十項　開拓使諸作業、金一萬五千六百三十九圓九十六錢五厘　第十一項　北海道鐵道、金八千五百九十七錢二厘　第十二項　廣島縣鑛山、金五十圓

第三款　雜收入、金四十八萬千八百八十七圓十三錢四厘

第一項　森林收入、金二十八萬二千二百五十八圓七十九錢六厘　第二項　官有物貸下料、金十一萬五千百九十二圓八十一錢七厘　第三項　開市港場官地貸下料、金八萬四千四百三十五圓五十二錢一厘

經常歳入合計金六千四百三十萬四千五百十二圓三十錢六厘

臨時歳入

第一款　諸返納、金六十三萬七千三百七十五圓五錢八厘

第一項　諸貸出金返納、金四十三萬六千九百六十一圓五萬七百二十一圓八十錢五厘　第三項　宮方及舊藩々貸金返納、金十、金四萬九千六百九十一圓三十九錢五厘

第二款　雜收入、金六百五十四萬七千九百九十二圓九十錢八厘　第一項　官有物拂下代、金七十三萬七千四百二十六圓八十四錢　第二項　雜入、金五百八十一萬五百六十六圓六錢八厘

臨時歳入合計金七百十八萬五千三百六十七圓九十六錢六厘

歳入總計金七千百四十八萬九千八百八十圓二十七錢二厘

歳山

經常歳山

第一款　國債償還、金千二百十三萬六千五百八十三圓八十錢九厘

第一項　内國債、金四百十八萬四千百十三圓二十二錢一厘　第二項　外國債、金九十五萬二千四百七十圓五十八錢八厘　第三項　紙幣銷却、金七百萬圓

第二款　國債利子並雜費、金千五百六十一萬五百三十八圓九十錢六厘

第一項　内國債利子、金千四百八十萬千四百二十一圓五十九錢六厘　第二項　内國債雜費、金八千六百四十一圓五十六錢　第三項　外國債利子、金七十九萬七百八十五圓五十八錢五厘　第四項　外國債雜費、金九千六百九十四圓十六錢五厘

第三款　帝室及皇族費、金百五十二萬三千四百九十四圓六十一錢一厘

第四款　年金恩給諸祿、金四十八萬七千四百四十四圓四十三錢五厘

第一項　賞勳年金、金十四萬八千二百八十四圓五十錢四錢七厘　第二項　軍人恩給、金十四萬五千三百七十四圓五十八十一錢二厘　第三項　社寺祿、金四萬七千八百五十四圓　第四項　西南從軍軍一時賜金、金二萬千二百五十五圓七十錢　第五項　沖繩縣士族金祿、金十一萬五千三十三圓八十七錢六厘　第六項　沖繩縣社寺從俸、金九千六百四十一圓

第五款　官省院廳局費、金二千二百五十九萬九千四百六十八圓二十八錢三厘　第一項　太政官費、金二百十四萬六千六百九十七圓七十二錢一厘　第二項　内務省、金百五十八萬四千六百十九錢一厘　第三項　大藏省、金百七十七萬六千九百七十八錢一厘　第四項　宮内省、金三千七百三十四錢九厘　第五項　元老院、金百七十八萬六千九百九十錢三厘　第六項　開拓使、金百五十一萬六千百八十錢九厘　第七款　營繕費、金二百十四萬六千六百九十八錢二厘

第一項　營繕費、金二百十四萬六千六百九十八錢二厘

第二項　土木費、金百五十八萬四千六百十九錢九厘

第八款　府縣費、金百五十八萬四千六百十九錢九厘

第九款　警察費、金百五十八萬四千六百十九錢九厘

第一項　警視費、金百五十八萬四千六百十九錢九厘　第二項　警保費、金百五十八萬四千六百十九錢九厘

第十款　神社費、金百五十八萬四千六百十九錢九厘

第十一款　備荒費、金百五十八萬四千六百十九錢九厘

經常歳出合計金六千百六十八萬九千八百八十圓二十七錢三厘

臨時歳出

第一款　興業費、金百五十八萬四千六百十九錢九厘

第一項　大藏省、金百五十八萬四千六百十九錢九厘　第二項　陸軍省兵費、金百五十八萬四千六百十九錢九厘　第三項　海軍省兵費、金百五十八萬四千六百十九錢九厘　第四項　鐵道、金六十萬二百八千三百十九錢九厘　第五項　採油、金六千四百十九錢九厘　第六項　海道炭山、金百五十八萬四千六百十九錢九厘　第七項　北海道、金百五十八萬四千六百十九錢九厘

第二款　雜支、金百五十八萬四千六百十九錢九厘

第一項　御巡幸費、金百五十八萬四千六百十九錢九厘　第二項　八厘　第三項　十七圓三十七錢九厘　第四項　二萬四千二百十九錢九厘　第五項　十萬四千百十九錢九厘　第六項　金二十四萬四千百十九錢九厘　第七項　四千五百圓　第八項　十一圓七十八錢九厘　第九項　二萬七千百八十九錢九厘　第十項　金一萬二千三百十九錢九厘　第十一項　萬七千三百九十九錢九厘

第三款　各廳費、金百五十八萬四千六百十九錢九厘

臨時歳出合計金百五十八萬四千六百十九錢九厘

歳出總計金六千百六十八萬九千八百八十圓二十七錢二厘